

銀漢亭日録



伊藤伊那男

6月25日(月)▼店、藤森莊吉さんの「聞句会」八人。池田のりをさん(昨夜の京都の店は池田のりをさんの紹介)。

26日(火)▼「萩句会」の選句、そのあと七名が店で食事。「ひまわり句会」あと十二人。皆川丈人さん、部屋の整理をしていたら出てきたという昭和三十年代と思われる俳人達署名の色紙をプレゼントして下さる。中島凌雲君出張でと。黒岩徳将、根木夏実さん。阪西敦子さん。

27日(水)▼「雛句会」十一人。「海程」会員という石倉さん。対馬康子さん久々。

28日(木)▼十三時、志村坂上駅に禪次編集長、馬場龍吉さんと待ち合わせ。旭印刷へ。私の句集の装幀、表紙、帯などを決定。あとは出来上りを待つのみ。七月十七日頃の予定。ORIX時代の部下、佐原君、大阪から戻り、調布自動車学校社長へ転出と。

29日(金)▼梅雨明けと。十七時、ホテルメトロポリタンエンドモントにて、「第五十二回蛇笏賞・迢空賞」授賞式。有馬朗人、友岡子郷氏。あと祝宴に一時間ほどいて店に戻る。祝賀会あとの天為の方々。小島健さん来店。「金星句会」あと七人。

30日(土)▼日本橋「鯨の与志喜」にて「纏句会」。帰国中の月野ぼなさんをゲストに。あと、題のイサキの焼き物。搾りおろした冬瓜汁、茄子の鳥そぼろ、握り。十七時過、纏メンバー九人ほどで松代展枝さんの家。既に酒盛りが始まっており、三十名ほどで月野ぼなさんを囲む歓迎会。二十二時近くまで。

勢の方に祝っていただき感激の一日!

8日(日)▼久々、家にいる一日。礼状その他雑用をこなす。エッセイ書く。昼寝する。午後、家族は近所に家を建てたタレントの恵さんの新築祝いへ。私は「西郷どん」などを見ながら晩酌。骨休めの日。有り難し。

9日(月)▼閑散であったが、「大倉句会」の医師、清水旭峰先生が氣仙沼の牡蠣養殖で有名な畠山重篤氏他を案内。畠山氏は二回目。娘婿の映画「うみやまあひだ」にも出演されている縁。清水先生もこの映画の学校での上映に一役買っていて、私の娘婿が監督であることを知って驚いている。畠山氏の梓の木についての話が印象深い。日本の梓は固くて梓弓などに使う。中国の梓はやわらかく版木にしたので「上梓」の言葉が今も残ると。

10日(火)▼「火の会」十三人と盛況。然し私の成績は不調。

11日(水)▼暑い。ラジオは東京三十四度と。「梶の葉句会」選句。店、法政大学高柳先生、伊那谷の方々と七人で来店。

12日(木)▼店、小島健さん。十七時から環順子さんグループ六人の暑氣払いの会。入れ替わりに「極句会」あとの十二人。パリ在住の林さん、昨年堀切君の紹介で来店して楽しかったと、仏のソーセージ類など土産に来て下さる。

13日(木)▼閑散。

14日(金)▼十時過ぎ、運営委員会。十三時、ひまわり館にて「銀漢本部句会」いつもより少なく五十人程か。喜怒哀楽書房の木戸敦子さん取材で参加。久々、久重凜子さん。あと「テング酒場」にて親睦会。あと渋谷「島竹」で小酌して帰宅。宮澤が沖繩から戻っていて小酌。

15日(日)▼八時四十分、品川駅発の新幹線にて京都へ。車中、崎陽

7月1日(日)▼午後、「春耕同人句会」あと、「炙谷」で親睦会。疲れあり二次会は遠慮し早々に帰宅し寝る。

2日(月)▼全体閑散。「かさ、ぎ俳句勉強会」あと九人。八月号の選句稿、大溝さん、花果さんに渡す。九月号の投句用紙受け取る。サッカー、対ベルギー戦あるとて電車の客も少ない。

3日(火)▼同人評。会員評を書く。店、超々閑散。八時半、閉める。

4日(水)▼「信州伊那井月俳句大会」の選句。応募句千六百句ほどあり。三十句選。店「きさらぎ句会」あと六人。「宙句会」あと十三人。私の誕生日祝いとしてヴーヴクリコで乾杯してくれる。酒の持ち込みも何本か。

5日(木)▼彗星集の選句、選評をして八月号の原稿終了。「俳壇」九月号へ十句(京都の句)投函。駅前の理髪店へ久々。「あ・ん・ど・うクリニック」、薬局、銀行など雨の中。成城仲間のマコさん、新島のくさや来たが何とかしてくれと持ち込みあり、店で焼く。飛魚と室鰯の極上品!「十六夜句会」あと十六人。女性だけの句会。活気あり。

6日(金)▼松崎道遊さん(伊那北高校同期、「銀漢」創刊時の恩人)、私の句集出版を聞きつけて十冊購入の予約。「雲の峰」朝妻力さん三十冊の予約と有り難し。店、「大倉句会夏祭」とて清人さん、氣仙沼の帆立貝、海鞘、その他。ほかに差し入れ数多あり。二十六人。

7日(土)▼「Oh! 納涼句会」。十三時半、五句出句。三十九名と盛況。料理や酒の持ち込み多く有り難い。あと席題の三句出し句会。最後にケーキとシャンパンを用意していただいており、私の六十九歳の誕生日を祝って下さる。後片付けのあと、九人ほどで餃子屋。たまたま句会と誕生日が重なったのだが、これほど大

軒の焼売弁当。一睡。近鉄京都駅にて大野田井蛙、今井麦、森羽久衣さんと合流。奈良へ。四十度ほどの猛暑。東大寺近くの「そば処 喜多原」で少し待つ間、井蛙さんと戒壇院を拝観。蕎麦佳品。柿の奈良漬、「春鹿」辛口もよし。あまりの暑さに早々「奈良ホテル」にチェックイン。少し涼んで東大寺大仏殿。麦、羽久衣、柱の穴くぐりできず。二月堂に廻り、茶店でかき氷など。三月堂を拝観して早々にホテルに戻りシャワー。十八時、「蔵」。おでん、刺身、鶏もつ焼き、ポテトサラダなど。酒は「風の森」。十九時、友人で奈良の実業家畑中利久君を呼び、近況や奈良の話など。二十二時お開き。私はホテルへ戻るが他の三人は和田桃さんの店へ。

16日(月)▼海の日。快眠。六時起床。ゆつくり風呂。八時、茶粥の朝食。興福寺の五重塔が見える。九時から館内ツアーあり。奈良ホテルの歴史、絵画、ピアノ、食器類の説明など。案内役の辻さん名解説。十一時十分の特急にて京都。十二時半、八坂神社境内にて、いづみ、展枝、凌雲、美紗と合流。円山公園の「祇園円山かがり火」にて豆腐料理など。四句出し句会。猛暑の中、烏丸高辻の「ダイワロイネットホテル京都」に入る。一休みして十七時半、「味どころ しん」に入る。鰻、ぐじ、のどくろ、万願寺、白海老、鯖。二十時前、切り上げて宵山へ。綾傘鉾、伯牙山、四条傘鉾、蟠螂山、放下鉾、途中一休みして函谷鉾の提灯落としに間に合わず。長刀鉾を見て二十二時過ぎにホテルに戻る。